

チャレンジ

統一地方選

社会への思いで作っている。投票は「欠かせない」と演者の気持ちを知る機会や、演目に込められた人間らしい生き方への思いを感じることも少なくなありませんでした。

産後は非常勤講

藤沢市議会（定数36）

かとうあやの（39）

市民の声を温度感を持ち議会に届けたい

師でお弁当を持ってこれない中学生の実態も知りました。市民の立場に立ち、寄り添う日本共産党の姿はいつも信頼していましたが、投票行動がせいぜい。2019年の参院選で、つどいに初参

加。市内にこんなと同じ思いの同世代がいるんだという驚き、伝わりやすい言葉で訴える子育て世代の浅賀由香さんの姿に衝撃を受けました。そこでやっと自分ごとにと捉えられ、少人数学級、全員制の中学校給食、小中学校への生理用品の個室設置など、生活と地続きの要求行動へとつながりました。まさか候補者になるとは思ってもいみせんでしたが、みなさんの声を温度感を持って議会へ届ける役目、子育てやそれぞれの個人の人生の形の中で政治参加する候補者という形で、支部や地区、みなさんと頑張れるのではと決意しました。

小学校から大学まで座間市で育ち、子どもを出産し藤沢市へ引っ越して10年が経ちました。大学で服装学を学び、産前には歌舞伎や商業演劇などの舞台衣裳の着付けをしていました。巡業公演期間には2カ月を超えることもあり、「期日前投票に行けない」と現場でこぼしたら、不在者投票の仕方を教えてくれ「演劇人は



緊張の連続ですが、みなさんの暮らしが少しでも良い方向へ変わることにつながるならーと思いつつ活動への原動力に変わっていきます。